福島大学 DEI 推進宣言
～ちがいに出会う ちがいから学ぶ～

2025（令和 7）年 9 月 29 日
福島大学

2011（平成 23）年の東日本大震災と東京電力福島第一原子力発電所の事故以降、福島に暮らす人びとは様々な経験をしました。福島に対するいわれのない偏見や差別、住民の分断など、心が痛む経験も少なくありませんでした。そうした経験を有する福島だからこそ、互いの違いを歓迎し、違いから学びあいながら、多様な背景を持つ人びとの力で地域をより良くしていくことが強く求められます。

福島大学はこれまで、2014（平成 26）年に「福島大学におけるグローバル化推進方針」を、2018（平成 30）年に「福島大学男女共同参画宣言」を、2020（令和 2）年に「福島大学における多様な性・性的マイノリティに関する基本理念と対応ガイドライン」を制定し、多様な人びとが学び、働く環境づくりを推進してきました。これらの方針をより徹底するため「福島大学 DEI 推進宣言」を制定し、「多様性（Diversity）」「公正性（Equity）」「包摂性（Inclusion）」の理念を基盤に、全ての人が尊重され、自らの力を発揮できる環境を築きます。私たちは、学生と教職員が互いに育ち合い、支え合いながら、地域とともに、誰もが取り残されない未来の実現を目指します。

1. 一人ひとりの違いを尊重した、差別のない環境づくり

人は、性別、年齢、性的指向、性自認、障がいの有無、人種、民族、国籍、出身、言語、宗教、文化的背景、ライフスタイル、価値観など、さまざまな違いを持っています。こうした違いにより不利益を被ることは、人権の観点からも認められません。福島大学は、一人ひとりの違いを尊重し、すべての学生と教職員が安心して学び、働ける環境の実現を目指します。そのために、無意識の偏見（アンコンシャス・バイアス）への気づきと学びの機会を広げるとともに、施設整備・制度設計・研修などハードとソフトの両面において、固定観念にとらわれない柔軟で差別のない環境づくりを推進します。学修・教育・研究・業務のあらゆる場面で多様性が肯定され、違いが歓迎され、一人ひとりの状況や背景に応じた配慮がなされる大学を実現します。

2. 対話を基盤とした、包摂的な組織文化の形成

すべての学生と教職員が違いを肯定し、支え合うことのできる関係性を築くために、福島大学は傾聴と対話を重視した、包摂的な組織文化の醸成に取り組みます。弱い立場にある人の意思がきちんと尊重されるよう、まずは相手の意見をよく聞くことを大切にします。意思決定にはできるだけ多様な属性・立場の人びとが参画し、特権性を自覚しにくい立場にある人びとばかりでの同質的な組織運営は行いません。誰もが尊重され、安心して意見を表明できる「心理的安全性」のある環境づくりを進めます。

3. ジェンダー平等の推進と、相互に支え合う大学づくり

福島大学は、ジェンダーに起因する格差や固定的な役割分担意識を克服し、すべての学生と教職員が公正な機会のもとでその能力を発揮できる環境をつくります。学修・教育・研究・業務のあらゆる場面において、性別にかかわらず正当な評価と成長の機会が得られるようにします。相互に理解し、ケアし、支え合う大学をつくります。

福島大学は、これらの取組を先進的に行い、組織全体の行動変容を継続することを通じて、包摂的で持続可能な地域社会の構築に貢献するとともに、社会の新たなモデルとなることを宣言します。